参議院選挙最終盤（公示直後）の情勢　　メモ 980701

コピー禁止　※取り扱い注意

公示直後の世論調査の結果から、最終盤の選挙情勢の特徴を分析してみる。道新などマスコミによる調査も７月４日（土）～５日（日）頃を中心に行われる予定なので、その際には新しいデータで補強されることを前提としてまとめてみた。

※なお今回の調査は、実施日が６月２７日～２８日、全道二段階無作為抽出により、対象サンプル数は１６７０件、回収サンプル数が７２９件（回収率４４％）。

１．投票率は下がるか？　－前回より「下がることはない」？

投票率調査ほどあてにならぬものはない。そのためここしばらくはこの種の調査は行っていなかったが、今回は「投票に行くか？」も聞いてみた。マスコミはこぞって「低投票率」を予測しているが（ただし各選対の予測という形で）、調査結果の傾向から「少なくとも前回以下（４７％）ということはないのでは？」と思われる。

Ｑ投票に行くか？

	全道平均	札幌市外	札幌市内
必ず行く	７６．８	７８．１	７４．９
おそらく行く	１１．５	１０．０	１３．９
行かない(棄権)	６．４	６．１	７．０
おそらく行かない	０．４	０．５	０．３
分からない	４．７	５．２	３．８
ＮＡ	０．１	０．２	０．０

この種の調査は、「行く」という答えが、実際の結果よりも相対的に高くでるものではあるが、その分を差し引いて見ても「前回投票率より下がる」ということにはならぬように思われる。ただし実際の投票率予測は、もっと直近の調査結果が出るまで待つ必要がある。

「低投票率」による恩恵を受けるのは、従来から「堅い固定票」を持つ公明党と共産党というのが通説である。このため民主党などは投票率が上がることによる無党派層の獲得をめざしてきた。しかし今回は、後に見る政党支持率調査でも、共産党の伸張は著しく、必ずしも従来定説とは違った傾向が出ているように思われる（共産党も“風”に乗る？）。

２．候補決定度　－決めている４割。自・民・共は５～６割。社民・新社３～３．５割。

調査時点で、すでに「投票する候補を決めているか」を聞いてみたところ、「決めている」のがほぼ４割、「決めていない」がほぼ６割という結果となっている。

Ｑ投票する候補を決めているか？

	全体	自民	民主	共産	社民	新社	公明	支持なし
決めている	37.4	48.4	53.5	60.3	34.5	30.8	66.7	13.0
決めていない	61.0	51.1	46.5	39.7	65.5	61.5	33.3	83.9
ＮＡ．ＤＫ	1.5	0.5	-	-	-	7.7	-	3.0

ちなみに前回９５年参院選の時は、ほぼ同時期の調査でも（公示直後。但し札幌市内）、「決めている」３６．０、「まだ決めていない」６３．１、「ＮＡ．ＤＫ」０．９となっていた。

※９２年参院選では、同じく「決めている」４２．３％,「決めていない」５３．４％,「ＮＡ．ＤＫ」４．３％であった。

政党支持別に見た特徴では、有力３候補を出している自民・民主・共産が５～６割の支持者が投票する候補を決めているが、社民・新社の支持者は３０～３５％で、「迷い」が

見られる。
　また公明支持者は７割近い「決めている」層があるが、後の設問の「候補選択」に見られるように、具体的な候補者を選択できるのは４割程度で、多くは「態度未定」となっている。また支持政党なし層は８４％が「まだ決めていない」。

３．政党支持率　ー共産のみ伸張１０％に、自民・民主・社民は低下（５月調査比）

	今回	前回
自民	25.8	27.7
民主	11.8	16.7
共産	10.0	8.3
社民	7.5	11.8
新社	1.8	0.6
公明	3.7	3.1
自由	1.8	2.7
さきがけ	0.3	0.6
その他	1.5	1.4
支持なし	31.6	22.1

　政党支持率の調査では、共産党支持が調査開始以来初めて１０％を記録したのが最大の特徴である。
　前回（９５年）の同時期の調査時点での共産党支持率は４．９％であったことを考えるとほぼ倍増しており、やはりマスコミの言う「共産堅実に伸びる」の予測と同様の傾向が伺われる。
　自民党は▼１．９％減。民主党も▼４．９％減。社民も▼４．３％減。普通「支持政党なし」は、公示直後には減るものだが､今回は逆に増えているのも特徴の一つである。
　ちなみに９５年同時期での政党支持率は、自民１６．４。新進１２．０。社会１５．９。共産４．９。さきがけ２．２。その他の党４．４。支持政党なし４２．９であった。
　自民党は、３年前の混乱期に比べると間違いなく復調してきている。中川が優勢に選挙戦を進めているのも、往時（３割超の支持率）に比べるとまだ低いとは言え、厚みを回復した自民党支持層に支えられているからである。

４．候補選択　ー中川・峰崎・紙の順位（構造）は変わらず。
ただし峰崎・紙の差は前回よりも接近｡札幌は紙が峰崎・中川を上回る。

	今回	前回
中川	19.9	22.7
峰崎	13.7	14.9
紙	12.2	11.2
萱野	4.0	4.3
水由	1.4	2.5
小野	2.1	-
その他	2.2	3.3
選べず	33.9	34.7
ＮＡ	10.7	6.4

　調査時点で「仮に今投票するとしたら」と聞いた結果が、右の表である。共産・紙以外は減っている。前回調査から２ヶ月経っていることを考えると、候補選択の数値が「下がる」という現象そのものが、これまでの調査では経験しなかった初めてのことである。
　この現象で推計できることは、①調査は意中の候補の決定如何に関わらず選択してもらっていることから、前回の「まだ決めていない」層で、候補選択に迷う層が増えた結果と言うことができる。
　②ただし中川・峰崎・紙の「支持構造は基本的には前回調査依頼変わっていない｣。
　③つまり中川は依然として「トップを走る勢い」を維持しており、峰崎と紙との差は接近し、ほとんど誤差の範囲内に入ってしまっている。
　④特に共産・紙は札幌市内での勢いが強く、中川・峰崎を引き離している。
　　※札幌市内ー　紙　１６．４％、　中川　１５．３％、　峰崎　１３．９％。
　　１区は、峰崎－中川－紙の順位。２区・３区は、紙－中川－峰崎。４区は中川－紙－峰崎。５区が峰崎－（紙＝中川）の順位となっている。
　また政党支持別で見ると、中川・峰崎はほぼ各自民・民主支持層の７割を固めており、紙は共産支持の７５％。萱野は社民支持層の４割しか固めておらず、水由は新社会支持層の５割。
　また公明支持層は峰崎に傾斜する傾向はあるものの(峰崎が 29.6%､中川 7.4%､紙 3.7%)、「選べない」が 51.9%と政党支持層の中では一番多く、「態度未定」の状態。
　支持政党なし層では紙が 9.1%、峰崎 7.4%、中川 3.9%、萱野 3.0%、水由 0.4%、小野 1.7%、その他 4.3%、選べない 55.7%となっている。最後はこの層の獲得争いが勝敗を決定する。